

令和2年度 地方創生事業の取り組み



計画名	うきはの地域資源を活かした文化資本の形成を基盤とする、新たな教育・学習環境の整備による地方創生人材の育成
------------	--

事業目的		事業成果
<p>様々な事情により学校に行くことが辛いと感じている小中学生を対象に、学校以外の地域社会と連携した学びの機会の提供や、自らが社会参画する機会を与えることで、地域への帰属意識を高めさせ、学校への復帰や自尊感情の向上を目指す。</p>		<p>・不登校となっている児童生徒に多様な教育の機会を提供できた。 また、関心や意欲的な行動等の「生きる力」を身につけさせることを目標に人材育成を進めた。 ・11名中6名が学校復帰、そのうち2名が高校進学。 ・コロナウイルス感染防止のため、生活が制限されている中で部活動を行えたことが生徒の心身に良い影響を与えた。</p>
事業項目	①多様な教育機会の整備	
所管	学事係	
事業費	7,480千円	
令和2年度事業		キーノートでの調理実習風景
<p>・家庭・社会・学校等で心理的・情緒的理由等により不登校となっている児童生徒に居場所を提供し、日常生活の改善、社会性の向上指導・援助活動を行い、自立に向けての学習や社会体験をさせ、学校へ復帰することを目指して支援を行った。</p> <p>・中学校の部活動においては、コロナウイルス感染防止のため活動が制限されていた中ではあったが、外部指導員による指導を実施できた。</p> <p>・適応指導勤務職員（会計年度任用職員）2名採用</p> <p>・部活動指導（コロナの状況を考慮し6月から実施）</p>		

事業目的		事業成果
小学生を対象に、久留米大学の学生や地元の究真館高校生徒、教員と連携して学ぶ意欲の向上を図り、家庭でも学習する習慣を身につけさせる。		<p>・受講生アンケート調査の結果、94%の子どもが「とても楽しかった」「楽しかった」と回答。95%の子どもが「寺子屋での勉強が役立った」と回答。役立った理由として「勉強するのが楽しくなってきた」「勉強の仕方が分かってきた」「わからないところがわかるようになった」という回答が多くあり、寺子屋の学習を通して、学習することの楽しさを感じ、学習へ意欲も高まりつつある。</p> <p>・保護者アンケートでは、寺子屋に参加したことで、子どもの学習に対する姿勢に変化がみられ、「学習に対して積極さが出てきた」「宿題をきちんとするようになった」「勉強の時間が長くなった」といった記述があり、寺子屋での学習が役立ったと感じ、次年度もぜひ参加させたいという保護者が多かった。寺子屋で学んだ子どもたちの学習に対する意欲が高まりつつある。</p>
事業項目	②寺子屋事業	
所管	社会教育係	
事業費	697千円	
令和2年度事業		寺子屋での学習風景(究真館高校の生徒による学習支援)
<p>・市内の小学生を対象に、土曜日午前中の2時間、年間で16回の学習支援を行った。91名（1年生23名、2年生15名、3年生11名、4年生23名、5年生7名、6年生12名）が受講。</p> <p>※新型コロナウイルスの影響により25回中、9回中止。閉校式も中止。</p> <p>・会計年度任用職員（学校支援員）や教職員OBを学習支援員として募集。浮羽究真館高校生（26名）も学習支援ボランティアとして参加してもらった。</p> <p>・寺子屋での学習（2時間）の内訳は次のとおり。</p> <p>1コマ目→学校の宿題やプラスワannot、家庭から持参した市販の学習ドリルで勉強。</p> <p>2コマ目→コーディネーターが準備した国語、算数プリントなどの問題に取り組む。</p> <p>上記のような活動を取り入れ、子どもたちが学習を楽しみ、うきは市寺子屋事業が目的としている「家庭での学習習慣の確立」を目指して事業に取り組んだ。</p>		

事業目的		事業成果
未就学児にはリトミック教育や文化教育など人間の感性を活かす教育の場を提供し、小学生については他地域との交流連携を通じ、自らの住む地域の特性について認識の形成を図ることで、豊かな感受性や相互理解、何事にも好奇心を持って取り組む姿勢を身につけさせる。		【保育所係】保育士研修によって、リトミック教育の指導方法を学ぶことで資質の向上に繋がった。また、子どもたちにとっても、リズム感、集中力、判断力、柔軟な対応力、表現力、コミュニケーション力等さまざまな面において成長につながった。文化教育では、外国人講師等による英語の歌や遊び・楽器演奏等のふれあいを通して、異文化に対する興味や好奇心を養うことが出来た。 【学事係】音感教育と英語教育を組み合わせ、身近で簡単なことについて聞くことや話すことで外国語教育の基礎を養え、児童たちの関心を高めることができた。 【社会教育係】体験学習をベースにしたセット事業を計画していたが、新型コロナウイルスの影響により参加する子どもたちの安全確保が困難なため、全事業中止した。今後は人数制限や感染拡大防止対策を実施の上、安全面を最優先に開催できるよう状況を注視していく。
事業項目	③うきはっ子の豊かな心育成事業	
所管	保育所係、学事係、社会教育係	
事業費	3,911千円	
令和2年度事業		保育所でのリトミック教育風景
<p>【保育所係】 リトミック教育に英語のリズムによる要素も加え、文化教育として就学前の児童が異文化や外国語に触れ合う機会を設け、児童の身体的・感覚的な発達を促し、異文化への興味関心を育んだ。また、リトミック教育講師を招き、市内公立・私立保育園・認定こども園・幼稚園の9園の児童を対象にリトミック教育を実施。保育士を対象としたリトミック指導者研修により、保育士のスキルアップに繋ぐとも保育現場においてもその活用を図った。</p> <p>【学事係】 児童が作詩に携わった曲を英語バージョンにし、児童みんなで歌いCDへ録音した。</p> <p>【社会教育係】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p>事業名：うきはActive Lab.(体験学習事業)①鷹取登山 5/30～31 (中止) ②吉岐島夏休み感動体験 8/6～9 (中止) ③子ども議会 8/22 (中止)</p>		

事業目的		事業成果
子どもや子育て世代をターゲットに、海外アーティストとの交流や異文化への触れ合いなどを通し、多文化への興味・関心の向上や理解を深めさせると共に、市内の文化的資源の対外的な発信を通じた文化資本の形成を育む。		<p>本事業を通じて来日した海外アーティストが、うきは市の幼児期のリトミック教育の一翼を担うなど、市内で一定の教育的成果があった。</p> <p>また、うきは市への来訪を足掛かりとして、海外アーティストの公演が他の市町村でも実施されるなど、海外アーティストとの交流が他の地域へ広がりを見せた。</p> <p>海外との交流は文化的側面だけでなく、本事業でうきは市に興味を持った海外事業者から生產品についての問い合わせがあるなど、経済面にも波及しつつある。</p>
事業項目	④国際連携・文化資本創出事業	
所管	ブランド戦略係	
事業費	2,938千円	
令和2年度事業		宇宙飛行士エリソン・オニヅカ氏を紹介する銅板レリーフの設置
<p>うきは市にゆかりのある日系三世の米国人宇宙飛行士エリソン・オニヅカ氏の功績を刻んだ銅板レリーフが、エリソン・オニヅカ氏の出身地であるハワイ州及びハワイ福岡県人会から寄贈されたため、道の駅うきはの観光案内所に設置した。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により海外渡航が困難となったため、直接的な交流行事は中止となった。</p> <p>また、これまで行ってきた海外アーティストとの交流事業であるアーティスト・イン・レジデンス事業も直接的な交流を中止し、インターネットを活用した情報発信や交流にとどまった。</p>		

事業目的		事業成果		
女性をターゲットに、地域の文化資本を活用し、「小さな起業」等を通じて自らが積極的に社会参画していくとともに、子育てに対応していくための環境を整備する。		医療事務講座の受講者11名のうち、2名が医療機関に就職した。 昨年度は実施できなかったが、うきはの農産物を利用した食品加工講座は毎年好評を博しており、平成29年度～31年度に62名の方に受講していただき、うち10名の女性が講座で生かした知識を生かして商品を製作し、販売した。		
事業項目	⑤女性活躍人材育成事業			
所管	男女共同参画推進係			
事業費	465千円			
令和2年度事業		ワード&エクセル基本習得講座		
当初10講座の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「医療事務講座」(受講者11名・11回実施・のべ者受講者数115名)と「デスクワーク希望者向け ワード&エクセル基本習得講座」(受講者7名・4回実施・のべ者受講者数21名)の2講座のみの実施となった。				

事業目的		事業成果
地域の多様な人材を積極的に活用することで地域自らが内発的に人材を育成する仕組みを作ると共に、うきは市出身者へ地元への愛着や誇りを再確認させて郷土愛を育むことで将来帰省したいと考える人を増やしていく。		<p>【地域振興係】 市内にある地域資源を掘り下げて調査し、リーフレットにまとめた。地域資源をめぐるツアーを将来的に実施できるような人材育成に努めた。</p> <p>【コミュニティ支援係】 今年度が新事業であったが、新型コロナウイルスの影響により事業が中止となったため、成果、反省点及び改善点等は確認できなかった。</p>
事業項目	⑤まちごとクラウドソーシング	
所管	地域振興係、コミュニティ支援係	
事業費	750千円	
令和2年度事業		棚田まなび隊による田植え風景
<p>【地域振興係】 浮羽町新川にある分田橋をテーマに講演会を行い、市内にある地域資源にスポットをあてた。 また「棚田まなび隊」を通して人の手作業によって守られてきた棚田の営農を産学官民による体制で学ぶ機会を創出した。</p> <p>【コミュニティ支援係】 市外へ出て働くうきは市出身者を対象に、地元への郷土愛を育み、将来の帰省へ繋げるための取組を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業中止。</p>		

事業目的		事業成果	
すべての市民をターゲットに、学びの場や新しいことにチャレンジする機会を提供することで、個々の能力や生きがいを創出し、地域に還元していく人材づくりを進める。		【社会教育係】会場利用方法の見直しや参加人数を分散させるなど感染対策を徹底しながら主催講座・自主運営講座の企画・運営を行うことが一定できた。また、閉講式ではホールに一同に会しての式典は感染拡大防止のため中止としたが、代替案として芸能部門発表を事前撮影形式で行い、発表会期間中にり色ふるさと館のテレビ画面で放映する等の対応や展示部門の会場設営、導線の工夫を取り入れ、参加者や来場者から好評の声も聞かれた。	
事業項目	⑥うきは市民大学事業	今後は、新型コロナの長期化を見据え、参加者数の調整や少人数参加型の講座を展開する等、実施可能な企画・運営が必要になる。	
所管	社会教育係、企画調整係	【企画調整係】情報誌等で市の取組を広く周知することでうきは市への関心や知名度の向上に努めたが、寄付に至らなかった。次年度は企業版ふるさと納税を紹介するサイトに掲載するなど寄付に繋がるPR強化を進める。	
事業費	2,847千円		
令和2年度事業		情報誌「今の大ヒットはこれだ!!」への掲載	
<p>【社会教育係】「うきは市民大学」を6月に開講し、感染対策を実施しながら4学部計63講座（自主運営含む）を展開してコーディネーター（会計年度任用職員1名）を中心に運営した。コロナの影響により、市民大学での活動が大幅に制限され、緊急事態宣言発令による休講や中止・縮小となる講座もあり、年間の講座実施回数や参加人数も減少した。</p> <p>小学生向けの子どもクッキング教室や親子陶芸教室等も企画していたが、安全面を考慮して中止とした。また、高齢者向け講座も変更や会食を伴う視察研修等を中止し、内容を入れ替えて実施するなどの対応を行った。</p> <p>【企画調整係】</p> <p>企業版ふるさと納税対象事業として人材育成や市民大学事業をPRするため、情報誌「大ヒットはこれだ」にうきは市の紹介記事を掲載した。</p>			

計画名	ブランディングによる農林水産物の基幹産業化
------------	-----------------------

事業目的		事業成果
うきはテロワールプロモーションを通じた農林水産物の新たなプロモーションモデルを開拓し、うきはの知名度向上を目指すと共に、豊かな地下水の保全のため農業環境に重要な地下水循環システムの継続的な調査を行う。		【都市計画準備課】フルーツ王国と呼ばれる所以を調査しまとめた「うきはテロワール」を基に、首都圏へのトップセールスを行い、うきは市をP Rすることで、市に関わる方や行きたいと考える方が増えてきたが、R2年度はコロナ禍における状況を加味して実施していない。 【水資源対策室】地下水の水位・水質及び河川の水質の観測を継続的に実施することで、「うきはテロワール」における地下水がもたらす様々な恩恵を将来にわたって持続させることに寄与した。
事業項目	①うきはテロワールプロモーション事業	
所管	計画・調整係、水資源対策係	
事業費	2,805千円	
令和2年度事業		地下水等モニタリング調査
<p>【都市計画準備課】 テロワールプロモーション(東京都内)についてはコロナ禍における緊急事態宣言等により事業を中止した。</p> <p>【水資源対策室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川水水質検査 11箇所 ・地下水(井戸水)水質検査 27箇所 ・地下水位測定 3箇所 		

事業目的		事業成果
うきはテロワールに基づく新規商品の開発等による高付加価値農業を推進し、うきはのフルーツのブランド化と知名度向上を目指す。		<p>【農政係】・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、うきは夢ラボ(6次化支援センター)の利用を一時休止したが、年間を通して多くの方に利用頂き利用件数は増加した。乾燥機機器の利用が多く、ドライフルーツ等は道の駅うきはや耳納の里等で販売されている。トマトピューレ等の1.5次製品を活用した新商品化への取り組みも企業と連携し実施した。R3年度内の商品化を目指し今後も引き続き地域農産物の高付加価値等に繋がる研究開発を推進して農業者等の所得増大を目指していく。</p> <p>【ブランド戦略係】ゴディバやロイヤルホスト、ホテルや観光列車など、うきは市産のフルーツを高付加価値な商品として取り扱ってもらい機会が増加した。この取り組みの成果としてうきは市産のフルーツの需要が高まっているが、生産者の高齢化等で、生産量は増加していない。今後は、新たな生産者の確保と育成が課題である。</p>
事業項目	②高付加価値農業推進事業	
所管	ブランド戦略係、農政係	
事業費	17,318千円	
令和2年度事業		高山シェフとお土産品開発(塩サブレ)
<p>【農政係】6次産業の推進に取り組み、農産物の有効利用や新たな特産品の開発及び製品の高付加価値化による新たなうきはブランドの構築を図った。</p> <p>【ブランド戦略係】うきは市出身で世界的なフランス料理のシェフである高山英紀氏と、うきは市の食材を活用したお土産品開発に取り組み、お茶や柚子胡椒を練り込んだ塩サブレと、フルーツを使用したレアチーズケーキを開発した。</p>		 <p>フレンチシェフ高山英紀 X フルーツ王国うきは</p> <p>“うきはの塩サブレ”</p> 

事業目的		事業成果	
新規就農者の確保・定着を促進するとともに、規模拡大や人材育成等を通じ、担い手の経営力の強化を図る。		<p>(株)うきはレインボーファームで研修生1名と地域おこし協力隊2名が研修を実施した。県農業大学校やJA主催の新規就農セミナー等に参加し、人材の募集やPR活動を実施した。中山間地の活性化を図るため、真美野地区の圃場で適地作物の実証や引き続きA型事業所と連携した農作物の栽培を実施した。堂迫地区で約1.9haの柿園を一時保有し、栽培や改植、作業道の小規模整備等を実施して果樹園地の継承に向けた取り組みを行った。</p> <p>現在までに地域おこし協力隊1人含む6人が(株)うきはレインボーファームを卒業し、トマト農家として就農している。トマト販売額は1億円を超えるものと期待される。</p>	
事業項目	③農業マーケティング塾		
所管	農政係		
事業費	7,831千円		
令和2年度事業		レインボーファームでのトマト栽培研修	
新規農業者の育成支援及び中山間地の農業振興を推進し、収益性のある野菜の振興を図り、担い手の経営力の強化を促進する。			

事業目的		事業成果
文化財を農村資源として活用するためのガイダンス拠点等を整備し、農的空間での交流の場や情報発信の場として活用し、市のPRにつなげる。		史跡屋形古墳群は、4つの壁画系の装飾古墳からなる古墳群であるが、古墳間は徒歩では移動しにくい状態であった。まだ工事は全て完了していないが、散策路を整備することによって各古墳を巡る見学もできるようになり、ガイダンス施設を整備することで、古墳の説明案内や休憩等もできるようになる見込みである。
事業項目	④農的空間整備事業	
所管	文化財保護係	
事業費	513千円	
令和2年度事業		屋形古墳群ガイダンス広場の整備風景
屋形古墳群の整備工事を実施。新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言等で工期が遅れ、年度内の事業完了が困難になり繰越した(令和3年7月末完了予定)。全国茅葺きフォーラムの開催地負担金として全国茅葺民家保存活用ネットワーク協議会負担金を予定していたが、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、R2年度中の開催ができなくなった。		

計画名	地域間連携による「稼ぐ力」・「新たな人の流れ」創出プロジェクト
-----	---------------------------------

事業目的		事業成果
地域資源を活かした農産加工品開発・販路開拓（拡大）への支援や民間企業等による売れる商品づくりとブランディング、将来の地場企業を支える担い手育成により新たな雇用創出や平均所得の向上を目指す。		農商工観光連携促進事業では、事業者5社を採択し、①うきはテロワールブランドのEU市場展開プロジェクト、②うきはテロワールブランド綿製品開発、③うきはテロワールの恵を生かした公付加価値フルーツ加工品の開発と販路開拓、④伝統工芸で作上げる高品質な浮羽棕櫚帚の販路開拓、⑤新規木材利用・ブランド化につながる木製コンテナハウス施策・開発を支援した。
事業項目	①うきはの地域資源を活かした稼ぐ力の強化に結びける（DMOと創業支援）	創業支援事業では、創業支援ポータルサイト「うきはのはなし」の記事更新し、創業者3名を紹介。創業者奨励金を7名に交付した。
所管	商工振興係	官学金連携市内事業者紹介事業では久留米大学・筑後信用金庫と連携し、市内事業者紹介記事を製作及び広報うきはに4回掲載した。
事業費	3,630千円	地域経済循環創出事業では、うきは市オリジナルの小学生が日々使用する連絡帳の開発を行った。今後はモニター及び販売へ向けた調整に入る。
令和2年度事業		うきは市オリジナル文具(連絡帳)
<p>【農商工観光連携促進事業】 平成29年度よりスタートした「地域産業資源活用事業補助金」事業を継続実施。</p> <p>【創業支援事業】</p> <p>①創業支援ポータルサイト「うきはのはなし」の記事更新及びサイト保守</p> <p>②創業者奨励金交付事業</p> <p>【官学金連携市内事業者紹介事業】</p> <p>近隣大学や金融機関との連携による市内事業者紹介記事更新及び広報うきはに掲載</p> <p>【地域経済循環創出事業】</p> <p>うきは市オリジナル文房具の開発及び市内販売事業。</p>		

事業目的		事業成果
観光総合プロモーションを核とした情報発信により幅広い世代や地域にPRすると共に、観光客の二次交通対策を実施し、回遊性を高めることで市内の隅々にまで人を巡らせ賑わいの創出を図る。		【企画調整係】【ブランド戦略係】これまでの総合観光プロモーションの取り組みにより、観光入込客数や観光消費額等が増加するなど、一定の効果があつたがコロナの影響により観光入込客数が激減しており、このような厳しい状況を打破するため、現在の社会状況に即した新たな取り組みを模索していく。
事業項目	②観光総合プロモーションを核とした情報発信事業	【都市計画準備課】市の知名度向上及び関係人口増加に向けたプロモーションとして市を舞台とした映画制作のため、H30年度に脚本を制作し、フィルムコミッションを立ち上げた。撮影は台風災害やコロナの影響により休止しているが、廃校を活用し一部映画のロケに使用された。また、3分で分かるテロワール動画やフルーツをPRするための山春小学校児童の合唱する動画等を作成した。それらの素材を基に、首都圏や福岡近隣のイベント等へ出展し認知向上の活動を行った。
所管	企画調整係、ブランド戦略係、計画・調整係、地域振興係	【地域振興係】作成した自転車マップを市内店舗へ配付して、入込の増加を図った。令和3年度以降はマップの中身を充実させサイクルイベントの実施につなげる。
事業費	32,869千円	
令和2年度事業		サイクルマップ
<p>【企画調整係】観光客の二次交通対策を図るため、市内のタクシー事業者と連携を図り、観光スタート拠点である土蔵・ウキハコ間の観光客の輸送において料金補助を行った。</p> <p>【ブランド戦略係】これまで行ってきた観光プロモーションやDMOの取り組みに加え、観光施策を推進する観光振興計画を策定した。コロナの影響によりイベントの実施が難しくなったため、UKIHA FAN CLUB会員向けにオンラインイベントを実施するなど、新しい生活様式に即した取り組みも行った。</p> <p>【都市計画準備課】うきはフィルムコミッション事業はコロナ禍における緊急事態宣言等により事業を中止した。</p> <p>【地域振興係】都市住民や自転車愛好家向けにうきは市内にサイクルコースを6コース作り、休憩所や飲食店等を盛り込んだサイクルマップを1000部作成した。</p>		

事業目的		事業成果
豊富な戦略や多様なノウハウを持つ専門的な人材を活用するなど、首都圏等での圏域の魅力を売り込み		<p>外国語のパンフレットの作成など、これまでインバウンド受け入れ体制の強化を行ってきたが、新型コロナウイルスの影響があるため、戦略の見直しが必要となっている。</p> <p>ゆるキャラ(うきぴー)を活用したSNSでの情報発信では、イベントや特産品の紹介など、定期的に発信を続けたことでツイッターのフォロワー数が4,711人、インスタグラムが3,544人、フェイスブックが2,710人(7月時点)と、県内のゆるキャラの中でもトップクラスのフォロワー数を有しており、重要な情報発信源の1つとなっている。全国にうきぴーファンが散在しており、うきぴーが出演するイベントのために飛行機を乗り継いで会いにきたり、クリスマスのメッセージカードや年賀状、ファンレター、ご当地の特産品などのプレゼントが届くようになった。</p>
事業項目	③首都圏に向けたうきは地域活性化事業Ⅳ期	
所管	ブランド戦略係	
事業費	4,775千円	
令和2年度事業		左:各種パンフレット 右:うきぴー公式Instagramでの情報発信
<p>うきはの商品紹介や韓国語等の外国語のパンフレットの増刷。 (うきは たからモノBOOK、観光パンフレット) ゆるキャラを活用したSNSでの情報発信(ツイッター、インスタグラム、フェイスブック)</p>		 

計画名	筑後川上流域の森林空間・森林資源を活用した、域内経済循環を高める自立的産業クラスターの形成
------------	---

事業目的		事業成果
森林管理システムを構築し、林業の生産性向上を図り、新規就業者の発掘を行う		データの一元化により市内森林情報の見える化や各種情報を手元で即座に確認できるようになることで適切な森林管理の推進が期待され、作業の効率化にも貢献している。これまでの事業によりICT技術の定着が見られるが、今後は更にこれらのシステムを扱える人材を増やしていくことが課題である。
事業項目	①人材育成・資源活用事業	資源活用に関する事業については、伐採2年目以降の再生竹林では造林機械の導入は有効であったものの、荒廃竹林では立枯れした竹が危険で当初想定していたよりも作業コストや安全性の面から難があることが判明した。今後、これらの検討過程で算出した単位当たりの作業量と先述の整備方針書を荒廃竹林整備を補助事業化する際の参考資料とし、地域資源を存分に活かす体制を整備していきたい。
所管	林政係	
事業費	5,848千円	
令和2年度事業		左:GIS研修 右:造林機械を使った竹林伐採風景
<p>これまでの伐採届や意向調査の結果などをGISで一括して管理できるよう各種データの一元化を行い、市役所職員及び林業事業者に対して、GISソフトの講習会やタブレット端末の操作方法に関する実習を行った。</p> <p>資源活用に関する事業では、市内農林機械メーカーと連携し、造林機械を導入することによる竹林伐採作業の効率化に向けた検討を行ったほか、得られた成果を基に市内竹林の整備に関する方針書をまとめた。</p>		

事業目的		事業成果
うきは市の地場産業である製材業を中心とした木材関連産業の市場、製材所等に係る現状を把握し、関連産業の高付加価値化を支援し、新たな雇用の創出を図る。		<p>【林政係】トラベリングボックスの商品化に向けた課題を洗い出し、販売に大きく前進した。その他の木製品では、建築部材に特化した事業者が多く、木製品に対応できる規格の材の調達ที่難しいことから製品価格が高騰することが判明したため、販売に向けて仕様変更等が必要である。今後、これまでに開発された商品とすでに展開されている市内事業者の商品とを組み合わせながら、市内事業者やうきはブランドの更なる認知度向上に向けた支援を行う。</p> <p>【図書館係】10カ月児健診の対象者に木製ブックエンドを渡すことにより、木のぬくもりに触れる機会を提供することができた。また、幼少期における家庭での読書活動を推進するきっかけとなり「おうち図書館」の推進にも効果があった。さらに製作を通して、地元業者や近隣の学校と連携することができ、地域資源の活用及び読書推進に繋がった。</p>
事業項目	②木材関連産業活性化プロモーション事業	
所管	林政係、図書館	
事業費	5,342千円	
令和2年度事業		究真館高校の生徒からのブックエンド納品
<p>【林政係】これまでの事業によって検討されたアイデアの中から、トラック等での移設が可能な木の小屋「トラベリングボックス」を開発し、新たな木材需要創出につながる商品として、市内事業者と協力しながら試作の組立てから移設までデモンストレーションを行った。地域材のブランド化につながる木箱及び木製ワゴンを製作し、試作を行った。</p> <p>【図書館係】第2次子どもの読書活動推進計画に基づき、地域木材を活用した木製ブックエンドを製作した。10カ月児健診時に対象者にお渡しして活用していただくことで、各家庭毎の「おうち図書館」を推進。幼少期から読書や木材に親しむ機会を提供した。</p> <p>製作は浮羽工業高等学校生徒。</p>		

事業目的		事業成果	
間伐材、除伐材の有効活用と林業従事者の新たな事業展開を図り、地域内の経済、エネルギー循環を高めるための方策として、木質バイオマスエネルギーの活用を図る。		薪ストーブ設置費補助事業として2年間で5台の薪ストーブを市内事業所等へ設置した。 薪ストーブを導入したことによるCO2の削減率については、灯油を使った場合と比べ平均で51%削減できていることがわかった。(R1導入の3台分のデータより。R2導入分はデータ収集中) また、設置後の追跡調査では、果樹の剪定枝や、廃材を薪に再利用している方が多く、資源の有効活用に繋がっている。	
事業項目	③木質バイオマス普及推進事業		
所管	企画調整係		
事業費	600千円		
令和2年度事業		市内事業所への薪ストーブ設置	
地球温暖化対策の一つとして化石燃料の代替えとなる木質バイオマスの普及を積極的に支援し、地域資源を生かした再生可能エネルギーの利活用を推進することで、地域資源循環システムの構築、森林の多面的機能の向上及び木材関連事業の活性化に寄与するため、薪ストーブ及び薪ボイラーを設置する市内事業者に対し、設置費用の補助を行った。 ・令和2年度実績 30万円(上限)×2事業者			

計画名	「うきは」まるごとサテライトワーク推進プロジェクト
------------	---------------------------

事業目的		事業成果
東京首都圏における企業を直接訪問し、当市での勤務環境や市の概要、地域における受け入れ体制等の説明を行う他、関連するイベント等に出展し、周知する。		廃校活用やワーケーションについてマッチング事業やお試し勤務等を開催する中で、新しい働き方を提案する取り組みを関東圏中心に紹介してきた。 令和2年度はコロナ禍の影響を受け中止しているが、ワーケーション受入補助事業を実施した結果、40件を超える申し込みがあり、自然豊かで広々とのんびり仕事ができるうきは市の恵まれた環境が多くの人に求められていることがわかった。今後も利用者の声を拾い、快適に仕事ができる環境づくりに努めていく。
事業項目	①サテライトオフィス等に係る誘致トップセールス	
所管	計画・調整係	
事業費	0千円	
令和2年度事業		市内温泉旅館の客室でのワーケーション風景
東京都内でのトップセールスを予定していたが、コロナ禍における緊急事態宣言等により事業を中止した。		

事業目的		事業成果	
市内における施設を活用してサテライトワーク等の可能性を見出すべく、都市部に勤務する民間企業等の社員を対象にした働き方改革となるお試し勤務等を開催し、うきは市を勤務地として選択してもらう。		R2年度は実施出来なかったが、合宿型ワークショップを行うことで、鏡田屋敷等の遊休施設活用について課題やニーズを把握した。 令和3年度から指定管理者に委託し、鏡田屋敷のホームページのリニューアルにより、予約方法を簡素化できたほか、ミノウ大学(市民大学)講座やギャラリー展示、結婚式の前撮り会場、朝食提供など様々な用途での活用が進められている。	
事業項目	②選択制勤務導入実証事業		
所管	計画・調整係		
事業費		0千円	
令和2年度事業		お試し勤務風景(令和元年度実施分)	
お試し勤務等のワークショップの開催や、都市部の企業社員と地域住民等によるワークショップ、セミナー等を開催を実施し、うきは市を仕事場として選択する魅力や可能性を広げる予定であったが、コロナ禍における緊急事態宣言等により事業を中止した。			

事業目的		事業成果
うきは市内における遊休廃校施設を地元住民の合意のもと、民間企業の具体的な利活用に結び付け、官民連携で地域住民のニーズに沿った取り組みを推進し、地方創生の実現を図る。		地域住民の意向調査や利活用希望事業者との情報交換等を通じて廃校の活用について取り組んだ。 姫治小学校は、アウトドア事業者がキャンプ施設として活用することが決定し、伴走支援していく。
事業項目	③サテライトワーク等に活用できる市遊休施設等の都市部企業とのマッチング事業	小塩、妹川小学校についてはコロナ禍による度重なるスケジュール変更を余儀なくなっていたが、R3年度に方向性を定める予定。
所管	計画・調整係	
事業費	0千円	
令和2年度事業		遊休廃校施設の活用を考えるフォーラム(令和元年度実施分)
遊休施設等マッチング事業を実施予定であったが、コロナ禍における緊急事態宣言等により事業を中止した。		

事業目的		事業成果
<p>まるとサテライトワーク事業での市民の創業やプログラミング等に必要知識を習得するための支援講座を実施し、社会参画への後押しを行う。</p>		<p>【創業支援事業】 合計16時間のセミナーを開催した。参加者6名うち5名に対して修了証を交付。参加者中4名が年度内に創業した。</p> <p>【IT・プログラミングセミナー事業】 10月22日から3月にかけて、こども向けパソコン教室を計42回開催した。 ※令和3年1-3月の緊急事態宣言下はzoomを利用したオンライン講座にて開催。 生徒登録者24名、受講延べ231名。</p>
事業項目	④まるとサテライトワーク事業でのセミナー開催	
所管	商工振興係	
事業費	1,084千円	
令和2年度事業		子ども向けパソコン教室(プログラミングを使って車を走らせる)
<p>創業支援事業として創業スタートアップセミナーを開催した。(8/29、30、9/5) IT・プログラミングセミナー事業では、こども向けパソコン教室を開催した。(10/22-3/27) ※リカレント教育セミナーはコロナ対応交付金事業として実施</p>		

事業目的		事業成果
うきは市の重要伝統的建造物群保存地区である筑後吉井エリアの地域ブランド向上を図り、更なる活性化や魅力向上、観光促進に繋げるため、今後の“まちづくり”の指針となるグランドビジョンを策定する。		<p>物件オーナーに物件の利活用に向けた具体的なイメージを持ってもらうことや、物件の相談窓口を知ってもらうために日々の情報収集や空き家利活用モデル地域公開等の活動を行った。</p> <p>結果、4件の空き家・空き地に関する相談があり、次年度以降の利活用促進につなげるとともに、「点」である個別物件の再生を「面」として展開してエリアの価値向上を目指した施策を実行していく。</p>
事業項目	⑤遊休施設等の活用検討	
所管	商工振興係	
事業費	2,398千円	
令和2年度事業		碓井家地域公開の様子
<p>まるとサテライトワークプロジェクトの中でまちなみ再生事業を行い、「筑後吉井グランドビジョン」に基づく筑後吉井エリアの地域ブランド向上を図り、更なる活性化や魅力の向上、観光促進に繋げるため、エリア内の空き家・空き物件所有者と利活用希望者双方から情報を収集し、多様な利活用の機会を増やすことを目的に事業を実施した。</p> <p>(1) 関係者が一堂に介し意見交換を行う会議を定期的で開催した。空き家・空き物件情報の収集・うきは市との情報共有を行った。</p> <p>(2) 空き物件のオーナーに対し、空き家・空き物件の多様な利活用に関する啓発や働きかけを実施した。また、事業の実現に向けた相談、助言その他必要な支援を行った。</p> <p>(3) 国・県・他市町村その他の機関において実施している補助制度や利活用事例、その他有益な情報の収集・整理を行い、うきは市との情報共有を行った。※本事業では特に利活用が困難な大型物件を中心に支援を行った。</p>		

事業目的		事業成果
企業が安心して仕事ができるセキュリティ能力の高いインターネット環境と仕事ができる環境づくりを行う		<p>ワーケーション施設として鏡田屋敷の予約システムを構築する予定であったが、コロナ禍による事業中止を判断している。</p> <p>令和3年度より文化財保護係が指定管理者へ委託し、ホームページのリニューアルに伴い予約フォームが設置されたことで予約の簡素化、管理の効率化が図られ、ワーケーションでの利用者に対する利便性が向上している。</p>
事業項目	⑥インターネット予約環境システム構築	
所管	計画・調整係	
事業費	0千円	
令和2年度事業		鏡田屋敷でのワーケーション風景(令和元年度実施分)
インターネット予約環境システムを構築し、気軽に利用しやすい施設として稼働させるほか、予約状況の把握や管理の効率性を向上させる予定だったが、コロナ禍における緊急事態宣言等により事業を中止した。		

計画名	廃校を活用した地域のにぎわい創出拠点整備事業
-----	------------------------

事業目的		事業成果
2018年度に閉校となった旧姫治小学校を民間事業者と共同でオートキャンプや宿泊ができる施設へと改修し、観光や新産業促進し、まちのにぎわいの創出と高齢者や地域住民がいきいきと暮らすまちづくりを目指す。		浄化槽とトイレの改修を行ったことで、衛生的で安心して利用することができ、利用者の満足度向上やイメージアップに繋がる。当該施設は令和3年度中にオープン予定で、運動場を利用したオートキャンプや校舎を利用した宿泊施設、小学校横の河川で川遊びができるなど、コロナ禍で人気急上昇しているアウトドア活動に最適な環境を備えている。 新たな地域資源が生まれることで魅力ある新川地区となり、雇用の面でもUIターン者の移住促進が期待できる。
事業項目	①移住促進・地方創生人材の確保・育成等の人材分野	
所管	計画・調整係	
事業費	32,071千円	

令和2年度事業	トイレの改修
<p>【整備内容】 トイレ2カ所、浄化槽1基の設計委託及び工事(市が行う改修箇所のみ)</p>	